

森・川・海が連携した広島湾の再生と次世代への継承をめざして

(多様な主体の連携と協働、未解明の現象の検討を含む広島湾再生の長期的な取り組みの第一歩)

閉鎖性内湾の再生を推進する「全国海の再生プロジェクト」の一環として、広島湾再生推進会議は広島湾再生行動計画(以下、行動計画)を策定いたしました。

行動計画では、同じ閉鎖性内湾である東京湾、大阪湾、伊勢湾との比較、既往の調査、研究成果から、水質は比較的良好であるが、北部海域では、夏季の赤潮の発生日数が長期化していること、海底の底質が大阪湾と同程度であり、水質に比べて悪いこと、干潟・藻場等はこれまでの沿岸部の開発等により、大きく損なわってきたことなどを分析しております。一方、南部海域では、藻場・干潟等の総面積はほぼ維持されているものの、藻場の成育密度が低下している、海水浴場等の入り込み客数が減少している、地域の人口が減少していることなどを分析しております。

これらを踏まえ、北部海域における赤潮発生の抑制、干潟・浅場等の生物生息・生産の場の再生、南部海域における生物生息・生産の場の保全とともに、海域全体として広島湾の保全・再生に対する人々の関心の向上、自然景観、歴史・文化等の保全を主たる課題といたしました。

これらの課題を踏まえ、広島湾再生の目標として、「森・川・海の健やかな繋がりを活かし、恵み豊かで美しく親しみやすい「広島湾」を再生し、次世代に継承する。」を目標として設定し、その実現のため、森林の保全、汚水処理の推進、干潟の再生・保全、生物生息に配慮し護岸の整備、魅力ある親水空間の創出、自然景観、歴史・文化的資源の保全への取り組み等の施策を実施していくことといたしました。

また、これらの施策のうち、先行して実施可能であり、連携効果の実証、広島湾再生のアピール等を目的とした「アピールエリア」として、海田湾、太田川河口～五日市、宮島周辺の三地区を設定しております。

さらに実験的な取り組みとして、将来的な数値目標の設定のための広島湾の物質循環メカニズムの解明、底質改善のための新たな技術開発、藻場・干潟等の再生技術の向上のための検討、海や川の浮遊・漂着ごみの回収・処理を効率化するための検討などを設定いたしました。

その一環である人工衛星画像による赤潮のモニタリングについては、既に3月20日より開始しております。

広島湾再生推進会議では、行動計画のフォローアップとして、新たな知見等を踏まえ、概ね3年に1回の中間評価、広島湾の状況の監視により、行動計画の見直しも継続して実施して参ります。